

間伐後の整備イメージ

16-45~46ページに示した方針に沿って、外来樹種の伐採や、現時点で生育不良あるいは外観上枝葉の茂りが十分とはいえないサクラ類を間伐した場合（あくまで機械的に実施した場合のもの）の整備後のイメージを図化しました。
本数でおおよそ4割程度伐採したケースとなります。

図の見方

間伐された樹木

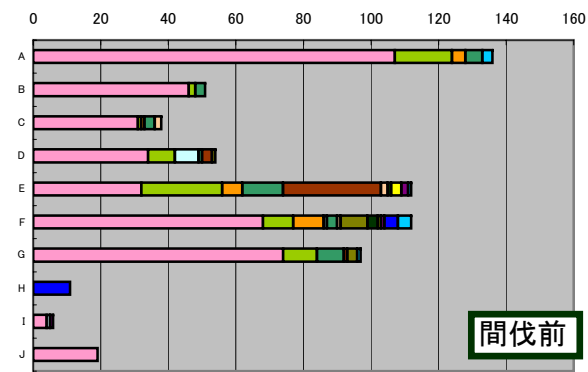
残った樹木
(サクラ)

ケヤキの
高木の下に
残る中木

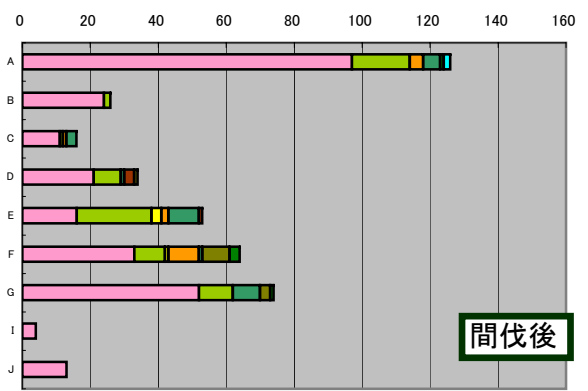


○残った樹木は樹冠で表示
樹冠の幅は、樹種と直径の組み合わせで任意に設定
例:ケヤキ 直径70cm以上=半径9mの樹冠

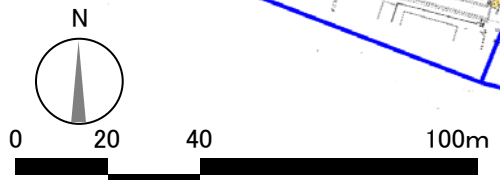
間伐前後の樹種別本数内訳



- サクラ類
- ケヤキ
- カエデ類
- アジナ類
- その他広葉樹
- スギ
- ヒノキ・サウラ
- カマツ
- イチイ
- イチヨウ
- モミ
- ヒマラヤスギ
- その他針葉樹



- サクラ類
- ケヤキ
- イチヨウ
- カエデ類
- その他広葉樹
- スギ
- カマツ
- イチイ
- イチヨウ
- モミ
- ヒマラヤスギ
- その他針葉樹



- ケヤキ類
- サクラ類
- その他の樹種
- 既存樹木

図4.3.1 間伐方針に沿った樹林整備後のイメージ

主なエリアの植栽候補種

A-1 土塁エリア

- アジサイ類を一部抜き取り、面的に植栽されている空間から間引き。彩りが点在するような空間へ転換。
(とくに土塁近く→西曲輪等で新たに整える切岸や斜面部の修景に移植・活用)
- 外来のアジサイをエゾアジサイ、ヤマアジサイ等に転換。
- 寄付や記念植樹のエリアであるため、経緯などの確認や関係者との調整も経たうえで実施が必要。

C-1 D-1 西曲輪の外周斜面

- 市民会館の移転や、既存道路の閉鎖と切岸復元のため、新たな造成を伴う。

- C-1 既存のアジサイ・サクラの植栽で活用可能な植物は残しながら整備
- D-1 樹林への移行を図る斜面 (F-2、G-2候補樹種を植栽)

C-2 西曲輪の平坦面

- 芝生広場への転換を図る。
- 斜面肩部へは他の場所からの移植できるアジサイなどを植栽し、仕切りとして活用。

C-3 帯曲輪の斜面

- 既存の斜面と一体の低茎草地の雰囲気維持(草刈により維持され、様々な野原の植物が生育している状況)。
- 切岸を復元する区間も同様の環境を復元。

A-2 入口部ポケットパーク

和風の植栽に変えていく方向で計画。

オキナグサ、ショウジョウバカマ、ウマノアシガタ、カワラナデシコ、キキョウ、オミナエシ、フジバカマ、ミソハギ、ヒガンバナ等、四季を通じて山野草で彩りや風情を演出できる種類に転換。



F-2 G-2 切岸斜面

- 生育旺盛な既存のつる植物等(クズ、アレチウリ)の刈り取り、除去の作業を時間をかけて実施。
- エリアを区切りながら徐々に実施。
- この作業を継続して、下記のような、地域の山地の樹林に生育する樹種を下層に植栽。
 <低木類> 斜面上部: ヤマツツジ、レンゲツツジ
 斜面中~下部: タノウツギ、ヤマブキ、イボタノキ、ハナイカダ、ヤマアジサイ、ダンコウバイ、アブラチャン、マユミ、ツリバナ等の補植
 <斜面下部草本類> シャガ、フッキソウ、ヤブラン、ホトギス等

G-1 三ノ丸平坦面

- 本丸→二ノ丸→三ノ丸と続く梯郭式の城の形状と往時の平坦な原・広場の雰囲気形成。
- 眺望を享受できる広場に転換。
- 平坦面は張芝を基本とし、点の彩りとなる低木類を植栽。高木はカエデ類で初夏と秋の彩りを強調。
- 園路の外周部、二ノ丸との境界部に和の雰囲気の植栽を施す。夏から秋の彩りを創出
 ・カエデ類、ヤマボウシ、ナナカマド、リョウブ
 ・シャガ、ヤブラン、ヤマアジサイ、ナンテン等

F-1 二ノ丸平坦面

- 礎石による御殿跡展示のエリアとして整備する方針に沿い、御殿跡の区域の植栽は張芝を基本とする。
- 西側の植栽地のヒマラヤスギ等は伐採し、残るサクラやカエデの下層に、季節の彩りを添える低木類を点景として補植。

E-1 本丸 西側斜面

- 斜面部分(E-1)は、過去に石垣であった絵図面もあるため発掘調査の結果次第では石垣を再生する場にもなり得る。
- 石垣が確認されない場合は、外部からの視認性を確保するため、地域に自生する広葉樹で、大きくなりすぎない樹種(カエデ類等)を点在させて、下層にはコグマザサを植栽。



甲府城参考例

E-2 本丸 平坦面

- 張芝で開放的な空間を創出。
- 巨樹に限定して保全(コブシ、イチヨウ)し、そのほかは伐採

E-3 本丸南側斜面

- ケヤキの枝打ちにより、一部区間の見通しを確保

下刈りの徹底、サクラの一部間伐により、石垣の見える飯山城らしい「切岸で囲まれた城」を実感できるポイントとして再生

植栽計画検討表

区域	場所	現状		植栽の課題 (空間の課題も含む)
		主な中高木	低木・地被	
A	ポケットパーク部分	オオヤマザクラ ナナカマド	サルビア・マリーゴールド、 パンジー	彩りは豊かであるが、外国産の植物主体。
	駐車場	ケヤキ オオヤマザクラ シダレザクラ	ヤマハギ	個人の協力で植えていただいている樹木が成長し鬱蒼としてきた場合の対応。
	北口トイレ周辺 (土壘付近)	オオヤマザクラ ケヤキ	アジサイ	西洋の品種のアジサイが多く見られる。
	南中門～弓道場	シダレザクラ カエデ ケヤキ	張芝 ヤマハギ	明確な出迎え口がなく、どこから飯山城なのか、初めての来訪者にはわかりにくい。
C	西側トイレ周辺	ソメイヨシノ	サルビア・マリーゴールド	
B	食事処【心幸食】の庭園	(高木は周囲のサクラ)	ムクゲ オオデマリ ススキ ヤマハギ フジバカマ アジサイ	
	西曲輪遊具エリア・切岸	ソメイヨシノ	アジサイ	サクラ類が大きくかつ密。生育不良個体から抜根・土壌改良を進める必要あり。
C	市民会館の周り	ソメイヨシノ		直径の大きなサクラ類の生育が思わしくない
	帯曲輪	ソメイヨシノ ケヤキ	サツキツツジ オオムラサキツツジ	車道により、曲輪が分断され、曲輪の雰囲気は伝わりにくい
E	帯曲輪	ソメイヨシノ ケヤキ	アジサイ ドウダンツツジ ヤマブキ ユキヤナギ	
	本丸【葵神社周辺】	スギ イチョウ ヒノキ コブシ モミ	エノキ ケヤキの幼木	社叢林としては立派であるが鬱蒼とした雰囲気を強調してしている。
	本丸【石垣周辺】	ケヤキ、ソメイヨシノ	芝生 一部ツツジ類(オオムラサキ等)	ケヤキが石垣を破壊しかねない状況。
	本丸切岸	ケヤキ エノキ コブシ	ヤマブキ、ユキナナギ(肩に植栽)	ニセアカシアの幼木が林内に散在。一部アレチウリ、クズなどつる植物の生育が旺盛
D	南側切岸斜面下	ソメイヨシノ、ケヤキ、ニセアカシア		ニセアカシアの幼木が林内に散在。
F	二ノ丸(平坦部)	ソメイヨシノ	石碑周辺:オオムラサキツツジ、ヤマツツジ、アジサイ、キヤラボク 平坦部 :張芝	東側のソメイヨシノは密な植栽であるため樹形が縦方向に伸びている
	二ノ丸(東側切岸)	ソメイヨシノ	アレチウリ クズ	アレチウリの繁茂
	二ノ丸(西側切岸)	ケヤキ エノキ	マユミ ヤマグワ 等	飯山のケヤキの斜面林の自然植生を残している。カエデ類が下層で生育
G	切岸 土壘東側	ケヤキ エノキ カエデ類 ヤマグワ等	マユミ エノキ 等	同上
	三ノ丸(平坦部)	オオヤマザクラ 外周 ソメイヨシノ	外国産植物多種	イングリッシュガーデン風の空間は、城の雰囲気に不似合い。

広場の使い方・植栽の方向性等	植栽基調種【計画】	
	中高木	低木・地被
和風の植栽に変えていく方向で計画	オオヤマザクラ ナナカマド	ススキ キキョウ フジバカマ 等
現状維持	ケヤキ オオヤマザクラ シダレザクラ	ヤマハギ
環境としては現状を維持するも、土壘の斜面部は土壘を見せるよう、アジサイ、ヤマブキ等を散在させる形にあらためる。	オオヤマザクラ ケヤキ	アジサイ類の一部抜き取り(とくに土壘近く:西曲輪で移植・活用) 面的に植栽されている空間から間引き エゾアジサイ、ヤマアジサイ等に転換。
延石の園路を円滑な移動が可能な土系の舗装に改修。植栽の雰囲気は現状維持	シダレザクラ カエデ ケヤキ	張芝
西側からの入口部として再生	ソメイヨシノ	コデマリ ヤマブキ ヤマツツジ
駐車スペース確保のため規模縮小	カエデ ヒメシャラ	ボタン シャクヤク類を点の彩りとして植栽
西曲輪の広場として再生 開放的な芝生広場として整備	ソメイヨシノ(生育の良好な古木は保全、不良木は伐採・除根)	平坦面は張芝 点景の修景:ドウダンツツジ 広場の西の外周側に既存のアジサイの移植・活用
帯曲輪として一体感のある広場に。 (分断する園路の幅員を狭めるあるいは斜面を復元) 石碑も移設し、広場としての認識を高める。	ソメイヨシノ	平坦面は張芝を基本 点の彩りとして既存の低木を移植・利用 斜面部は既存の斜面の植生を維持
葵神社移設により広場を確保。 スギ林は伐採し、地域の斜面に自生するケヤキ以外の広葉樹を植栽 コブシの巨樹は保全	神社西側の斜面部にはカエデ ヤマボウシ等、大きくなり過ぎない広葉樹	神社西側の斜面部の下層はコグマザサで修景
石垣の再生を優先(ケヤキは伐採)	【石垣付近の高木植栽は避ける】	張芝を基本
樹林として保全。枝の込み合った箇所等で枝打ちを中心に実施。	ケヤキ エノキ コブシ	現状維持(定期的刈り込みを実施し見通しを確保)
樹林として保全。 定期的な下刈りの継続で維持。	ソメイヨシノ、ケヤキ	低木:タニウツギ、ヤマブキ、イボタノキ、ハナイカダ、ダンコウバイ、アブラチャン、マユミ、ツリバナ等の補植 草本:シャガ、フッキソウ、ヤブラン等の補植
二の丸御殿跡の明示とあわせて、明るい広場に転換する	外周部のソメイヨシノに限定。 広場内のソメイヨシノは伐採	張芝
アレチウリの駆除、クズの地際刈り取り【年2回】などを行いながら徐々に下層植生を構成	ソメイヨシノ	中型のカエデ類の補植(ハウチワカエデ)、 ヤマブキ
切岸の樹林の連続性を保全。 現状維持を基本。	ケヤキ エノキ カエデ類 ヤマグワ等	とくに植栽はせず、現況の植生を維持する。
	【既存の樹林環境を保全】	
三の丸は開放的な広場へと転換。	外周のソメイヨシノを育成 オオヤマザクラは園内移植 カエデを新たな彩りとして追加	平坦面は張芝 園路沿い、二の丸との境には、和の雰囲気ですに夏から秋の彩りを創出 ・カエデ類、ヤマボウシ、ナナカマド、リョウブ ・シャガ、ヤブラン、ヤマアジサイ、ナンテン等